

おめでとうございます

4月29日付けで、加治美弘さんと森田宗博さんが瑞宝双光章を、草場正人さんと皆川信幸さんが瑞宝単光章を受章されました。

瑞宝双光章受章

加治 美弘さん
(68歳、猪国)

加治さんは、昭和40年5月に田川市消防署で消防官を拝命、昭和45年に福岡県田川地区消防組合が設立されると消防官として移籍し、約40年の永きにわたり、火災予防の原点である防火思想の啓発や消防施設の整備、広域における消防防災体制の整備に全力を傾注し、広域消防行政の推進に尽力されました。

また、平成13年から平成17年に退職されるまでの5年間は、田川地区消防本部消防長としての重責を担い、部下を見事に統率されました。

さらに、新しいアイデアと卓越した行政手腕で、IT機器をいち早く導入するなど、次々と新分野を開拓し、消防行政サービスの向上に努められ、今日の田川地区消防の発展に多大な貢献を果たされました。

加治さんは「40年間苦勞も多かったが、仕事を全うできたのも家族を始めとする周囲の協力があったからこそです。心から感謝します」と話しました。

瑞宝双光章受章

森田 宗博さん
(77歳、位登)

森田さんは、昭和33年5月に福岡県教育委員会に採用後、約38年間の永きにわたり、主に田川市の小中学校などに勤務され、誠実かつ卓越した指導力で児童・生徒に接するなど、教育振興の有能な指導者として、広い教育的視野に立ち、研究指導・教育相談などの充実に努められました。

また、昭和63年4月から平成4年3月までの4年間は、本市教育委員会学校教育課長として活躍され、学校教育現場での多くの経験や豊かな教育識見、卓越した行動力により、本市教育行政に多大な貢献を果たされました。

平成8年の教員退職後も田川市青少年対策室指導員を1年間、田川市教育研究所長を4年間務められ、学校教育はもとより地域教育にも力を注がれました。

森田さんは「受章の連絡が入った時は大変驚きました。これもいろいろご縁があったみなさんのおかげだと思います。深く感謝いたします」と話しました。

瑞宝単光章受章

草場 正人さん
(76歳、伊田)

草場さんは、昭和32年に造園業を営んでいた父親に弟子入りし、以来50年以上の永きにわたり、優れた技能や豊かな創造力を遺憾なく発揮し、造園職人として市内外を問わず、数々の独創性豊かな庭の整備を手掛けられました。

また、平成24年3月までは、西日本短期大学緑地環境学科(福岡市中央区)などの教育機関で非常勤講師として後進の指導に全力を傾注し、あわせて平成2年から現在までの20年以上、国家資格である「造園技能士」検定試験での試験官を務められるなど、若い世代などへの技術の伝承に尽力されています。

さらには、平成23年には認定職業訓練や技能検定の実施において多大な貢献を果たしたとして「職業能力開発関係厚生労働大臣表彰」を受けられています。

草場さんは「自分が受章していいのかと驚いた。ひとつの仕事長く続けてこられたのも、家族をはじめとする周囲のみなさんのおかげです」と話しました。

瑞宝単光章受章

皆川 信幸さん
(78歳、夏吉)

皆川さんは、昭和32年から平成7年までの38年間の永きにわたり、消防団員として犠牲的精神のもとに、卓越した識見と抜群の実践力をもって、常に団員の先頭に立って業務を遂行され、地域消防および郷土防災の発展のために全力を傾注されました。

中でも、昭和57年に伊田商店街で発生した火災では、第3分団第2部班長として出動し、人命第一主義に徹した適切な指揮と敏活な判断で部下団員を統率し、田川地区消防本部との密接な連携のもと、被害を最小限に食い止めるなど多大な功績を残しました。

また、平成2年には消防庁長官から「永年勤続功労章」を授与され、同年6月から第3分団長の要職を担い、平成7年3月に惜しまれながら退団されました。

皆川さんは「消防団員として当然の務めを果たしてきただけです。今回の受章については、大変うれしく思います」と話しました。